

# 令和 1 ・ 2 年度指定研究 (寄宿舍)

～観点別評価を意識した生活指導実践～

今年度は小学部 1 名、中学部 7 名、高等部 9 名の計 1 7 名  
で寄宿舍生活を過ごしています。

# プログラム

1. 研究方針
2. 実践の紹介
3. 寄宿舍として本研究を通じた成果と課題
4. 研究の成果と課題を踏まえて



# 1. 研究方針

## (1) 前年度の取り組み

①個別の生活指導計画の観点別仕分け



②観点別評価の共通理解



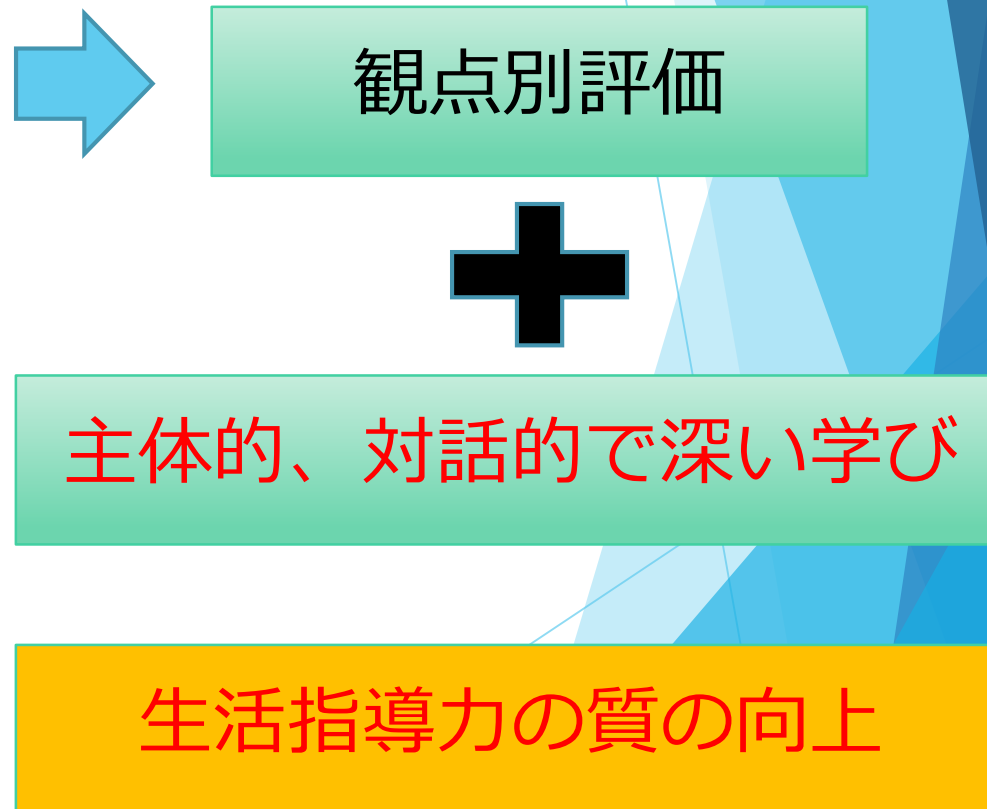
③観点別評価を踏まえた生活指導実践  
(対象児童生徒を各学部より1名抽出)

## (2) 今年度の取り組み

### 昨年度の課題

- ① 「知識・理解」の弱さ
- ② 「思考・判断・表現」  
「主体的に取り組む態度」の評価の  
難しさ
- ③ 子供が学習活動に評価をいかせていない

研究の目的



## **2. 実践の紹介**

### **(小学部グループ)**

# 寄宿舎小学部グループ 生活目標

衣服の清潔さを維持することで

健康の保持増進に繋がることを理解する

～豊かな社会生活を送るために～

# 1、生活目標設定の理由

本児が、健康的で豊かな社会生活を送るためにも、身だしなみと衣服の保清に関する知識を身につけ、衣服や身体を清潔に保つことで、健康の保持増進に努める事を目指す。



**「適切な行動選択」を目指して思考する**

## 2、生活目標を実現するためには

- (1)衣服の清潔さと、清潔さが身体に与える影響を理解できるようにする。【知・技】
- (2)衣服や身体を清潔に保つために、自身の状態を把握しその時々で必要な行動ができるようにする。【思・判・表】
- (3)自ら意識して衣服や身体の状態を理解し、健康の保持増進に努める。【主体性】
- (4)「主体的・対話的で深い学び」
  - ・ 知識、技能を活用する⇒行動のふり返り(修正)
  - ・ 職員との対話⇒思考を**広げ、深める**
  - ・ 課題発見⇒試行錯誤しながら思考を深める⇒状況に応じた行動選択が  
取れる



## ☆昨年度の成果と課題より

- ・ 職員の見守りや言葉掛けの下では着替えることは定着しつつあるが、主体的に着替えをおこなう段階まではいたらなかった。
- ・ 保清の必要性を十分に理解させ、習慣化するためには**内発的動機付けを高められる**ような取り組みが必要である。

## ☆児童の実態より

- ・ 習得した知識や技能を活かして試行錯誤しながら、**自分の生活に結び付けて**行動する力を身につける。
- ・ 学習したことや自分の**思考力**を働かせ、**主体的に行動する力**を身につける。

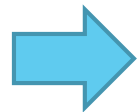
# 3、指導計画

## (1)主な活動

- ・ 実物や写真、イラスト等を使用し、視覚や嗅覚で理解させる。
- ・ チェックリストを使用しながら、自らの考えを深めさせる。
- ・ ワークシートを利用し、知識を深め活用できるようにする。
- ・ 絵カードを使用し、実生活に起こりうる出来事について対話し、見通しを持たせる。

(ア) 「問い」 (職員)

・ 支援 (資料・対話指導)



(イ) 活動(児童)⇒課題が見えてくる



・ いろいろな視点から  
・ いろいろな課題

(ウ) 「問い・疑問」 (児童)が生まれる

・ 次はどうしたらいいんだろうか

ねらい(目標)  
使える知識・技能の習得  
主体性

## 4、研究の実際

職員の手立てにより、児童の思考を促し、学びの方向づけや動機づけをおこなうことができる。

思考させたい  
ことは何？

気づかせたい  
ことは何？

生活指導のタイミ  
ングも大切！

手立てもいろいろ  
な視点から多角的  
に捉えさせる



手立てにも深さ  
と幅がある！

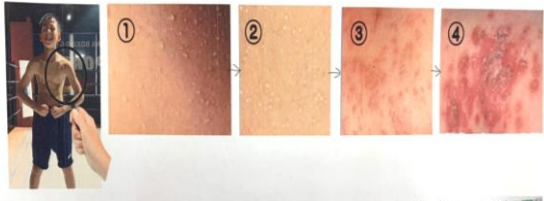


# (1)対話・ワークシート【知・技】【思・判・表】

学 習

衣服の清潔・不  
潔の状態を理解

汗と汗疹の区別  
ができた



思考

汚れた衣服を  
着け続ける  
と...

わかる

汗疹ができたり臭  
くなることを理解  
した。

不衛生な状態から  
汗疹になることを  
理解した。

知識を**深める**  
ことができた

# (2) 場面設定、絵カード【知・技】【思・判・表】

日課の流れの  
タイミングで  
着替えている  
のでは？



入浴時間を早めたり、  
日課をせずに好きな  
ように過ごさせてみ  
ようかな



面倒くさいなあ

ちゃんとやろうよお

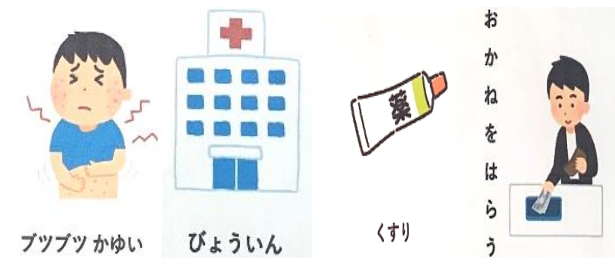
プツプツ かゆい

びょういん

くすり

おかねをはらう

着替えないver.



豊かな  
社会生活を送る

病院や薬にかかるお金を、  
魚釣りに使えるぞ！

着替えたver.



見通しを立てて、日々の  
積み重ねを行うことで、  
将来の自分が形成される。  
【知識の深化】

本児の考えを広げたり深めたりする機会を  
設けることができた。

### (3)週末の振り返り【主体的】

寄 宿 舎

入浴の  
時間だ

寝る前に  
着替えなきゃ

先生に言われたから  
着替えようかな

日課の流れや職員という言葉かけ  
【受動的】

帰 宅

家 庭

夜遅いから  
入浴はいい  
かな

毎日、入浴し  
た方がいいか  
分からない

入浴・歯磨きする  
の忘れちゃった

着替えよう

本人の**主体性が弱い**

# (4) ☆心もからだもきもちよく☆シート【三観点すべて】

## 1 段階

- ①いつでも、記入OK
- ②声を掛けて一緒に記入し本児の行動を職員が理解する。

自らシート項目を考えたことで、行動選択の幅を広げることができた。

自分で考え  
判断する

## 2 段階

- ①学習日の設定
- ②学習日の時に、1回は職員が声を掛けて行う。
- ③本児から声を掛けてくるまで待つ。

職員に自ら声を掛けて学習をおこなった。

学習への  
意欲

## 3 段階

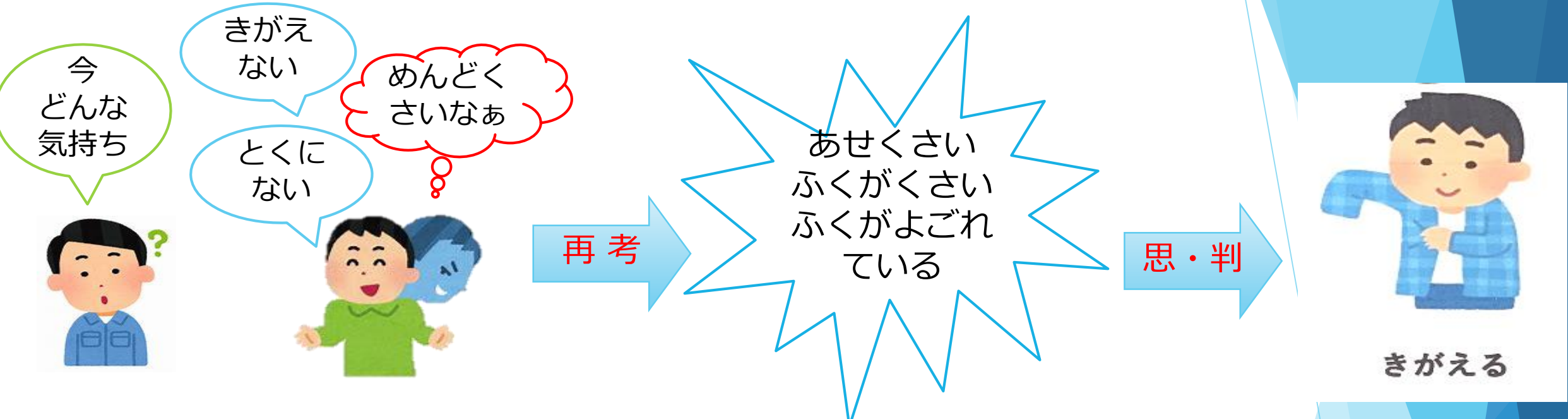
- ①帰舎後、シートを渡す。
- ②本児が自らの状態を記入し、職員に渡せる事ができるようにする。

学びと振り返りをする  
ことができた。

見通し  
振り返り

次の  
学びへ！

# (5)ホワイトボード掲示【思・判・表】【主体的】



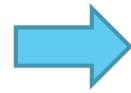
衣服が汗で濡れている状態で対話をおこなった

積み重ねた知識と関連づけて、問題を見つけて解決策を考えた

適切な行動選択



「衣服や身体の清潔さを維持するためには」



様々な視点から深く、幅広く考える

「適切な行動選択」を目指して思考する



本当にこれでいいのか？

いつも清潔でいたい！

健康でいるためには？



もっといい方法があるかも！



どうしたらできるかな？

もっと知りたい！

新しい問いが生まれる



次の学びが起こる

学びに向かう力

# 5、生活目標における観点別目標と評価

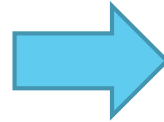
昨年度の成果と比較すると??

昨年度

- ①知識・技能  
衣服の臭いで着替えが必要だと理解できた。
- ②思考力・判断力・表現力  
日課では職員の言葉かけで着替えることが定着しつつある。
- ③主体的に取り組む態度  
職員の言葉かけで着替えを行うことができた。

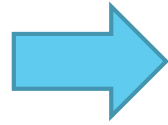
今年度

- ①知識・技能  
身体への影響を考えて着替えていたので、**学んだ知識**を使える**知識として実践**できた。
- ②思考力・判断力・表現力  
**状況に応じて、自分なりに考えて**着替えをおこなうかどうかの判断をしていた。
- ③主体的に取り組む態度  
職員の言葉かけや**支援ツール**を用いて、適切な行動選択ができる時もあった。

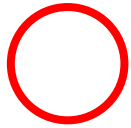


# 児童の観点別評価

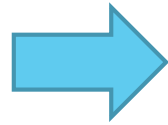
①知識・技能



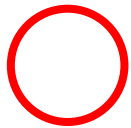
①習得した知識・技能で、適切な行動選択を行えた。



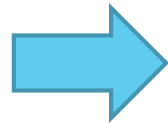
②思考力・判断力・表現力



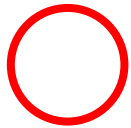
②思考を広げ、深めたことで、主体性が芽生えた。



③主体的に取り組む態度



③行動する為の選択肢が広がったことで、学んだ知識と思考力を、より活用できるようになった。



## 6、職員の成果と課題

### □ 成 果 □

- ①心理的要素が働いても、適切な行動選択を取る事ができつつあり、**学びの意識化**が見られるようになった。
- ②変則的な勤務態勢の中でも情報共有を図り、共通した指導とベクトル、それぞれの実践方法でアプローチし**指導実践のバリエーションを広げる**事ができた。
- ③職員が三観点を意識して、指導方法や評価に関する**共通理解**を図れた。
- ④今後も、共通した支援方法で取り組んでいく**有効な手立て**になることが確認できた。

### □ 課 題 □

- ①昨年度に引き続き、週末の生活習慣等に課題があるため、**家庭との連携**が必要。
- ②評価の基となる「個別の生活指導計画」と、どう結びつけるか。様式や記述方法。

# 3. 寄宿舎としての本研究を通じた成果と課題

## (1) 成果

- ① 「生活指導改善のポイント」を新たに挿入したことで、指導方法や評価に関する観点等の**共通理解**を図ることができた。
- ② 視覚的教材や情報機器等を活用しながら、職員との対話や振り返りを通し、学びを深めたことで**職員の資質向上**に繋げることができた。
- ③ 3つの観点を明確にした評価の浸透。

## (2) 課題

①児童生徒の実態把握に取り組む大切さや、自信や達成

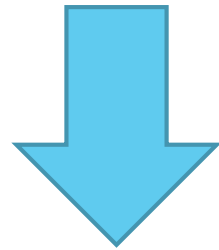
感が得られる指導・支援の在り方を模索する必要性。

②他の児童生徒にとっても必要な内容なので、継続指導。

児童生徒が負担にならないような内面等の配慮。

## 4. 研究の成果と課題を踏まえ

- ・今後も学部、家庭や地域社会と連携しながら、児童生徒の寄宿舎生活の充実。
- ・児童生徒と共に考え・理解しあう姿勢づくりを意識。



将来に向けて「生活の質」の向上。

**ご清聴ありがとうございました。**

